

リスクマネジメントからみた医療事故の原因と対策

国際予防医学リスクマネジメント連盟理事長  
日本予防医学リスクマネジメント学会理事長 酒井亮二

本年度も、医療安全教育セミナーが東京大学にて2007 年8月5日～10日に開催されます。セミナーの目的は日々進化する医療安全の最先端の話題を普及するプロフェッショナル教育で、下記の新しい重大な諸課題が盛りたくさんに含んでいます。

医療事故の原因は無数にありますが、セミナー・プログラムの編成にあたり、事故というリスクに対する多数の原因とその対策と戦略を、現代マネジメント学の4大要素である人、金、物および情報から整理しました。

(人的な問題) 人的ミスの最大原因は新しい環境に対する適応の未熟です。新しい職場に入る時や新しい技術が導入された時、誰もとまどい、それが難しいほど、忙しいほどにミスは多発することが知られています。現代のリスクマネジメント学では、安全志向の高い人の組織こそがリスク回避に重要とされ、これをどう構築・向上するかが最終経営責任者のリスク管理能力とされます。また、今回の実習ではじめて取り上げられるFMEAもリスクマネージャーの業務で、人間工学は日本の工業界が世界一の知識と技術を有します。今回はその先駆者からその真髓を講義されます。

患者参加型医療、すなわち、患者さんと共に作る医療は日本では始まったばかりで、日本の医療界ではその本質が十分理解されていない、これから高度に発展する重要な分野です。

(情報の問題) 医療では人と人のコミュニケーション、つまり、適切な情報交換が大変重要な機能を持ちます。治る希望の絶たれた患者さん・ご家族には暖かな言葉が何よりもなぐさめになり、逆にミスコミュニケーションによる医療訴訟が増大しています。多忙な医師が患者さんと十分な対話の時間が取れない事情もありますが、もともと臨床リスクコミュニケーション学は日本では大変遅れています。航空機事故予防のために機内添乗員に導入された人間工学の手法である「指差し呼称」が最近に医療界でも導入されましたが、愛しい人を突然に失った方に、どのような言葉と態度をとるべきなのでしょう？ コミュニケーションは文化ですので、欧米手法を容易に導入できません。日本の機上添乗員の会話術は世界的に優れています。医療従事者のコミュニケーション能力の向上の研究は始まったばかりです。

(物的な問題) 薬剤の安全管理と医療機器の安全管理が最大課題です。これらについて日本では今年度からそれぞれの分野の専門家の専任任務として分業化されましたので、今回のセミナーでは取り上げられなくなりました。ただし、転倒事故とカルテの記載ミスが日本での多数の医療事故の原因ですので、今回のセミナーで初めて話題を提供いただけました。

(金銭問題) 仕事と収入のアンバランスが大病院での医師不足・看護婦不足の主な原因です。欧米ではリスク経済学とリスク経営学のような手法が活発に開発されています。これらの紹介にはかなり時間を必要とします上、日本では医療経営学が大変遅れていますので、10月のシンポジウムから大規模に行い、本セミナーでは序論だけをお願いしました。

(その他) 過去1年間に大幅な進展があった重大な中心的話題について取り上げる必要があります。

ところで、海外の教育セミナーでは毎年おなじ内容の行っていることが見受けられます。しかし、医療界は日々に進化するものです。継続する努力はプロのスポーツ選手だけの課題ではなく、すべてのプロフェッショナルに共通との指摘があります。つまり、本セミナーは、日々に進化する医療界において社会人の生涯教育の性格が必要とのご指摘です。そのために少し長い大学でのサマースクールですが、教育セミナーが医療の現場にあって日々抱えている重大な問題を解決する能力の向上・開発に必ず役立つと確信し、また、世界に比類ない社会人教育を日本に構築することを目指しています。